

のあらゆる遺跡中で、最も壯大で最もよく保存されたものである。次いで北方に進み、アンコール・トム Angkor-Thom 即ち、『大城市』の大城壁の方に向ひ、——若しアンコール・ヴトが一寺院だけのものとすれば、アンコール・トムは大市街であるからである。——元王宮の廣場に立列んでゐる主な建物、特に、バイヨン Le Bayon と稱してゐる中央寺院を靜かに見物して、終りに、最近開いた大森林の道に依つて、首都の北郊に散在する廢墟の間を抜け、こゝに定めもない遊覽を興味新たなる裡に終る事とする。この間に、或は、古城市没落の昔を偲び、或は、霸權衰頽の今を考へて、今昔の感に打たれる。……然しながら今日では、此の長へに往つた過去に覆はれてゐる壯麗の跡を傳奇的口調で面白く描いた説明をして、聽者讀者の満足が得られる場合でなく、また考古學者が容易に其責を免れる事は出來ないので、余が案内に擇ばれたとすれば、諸君は、此等遺跡の現況についてのみでなく、之に關する研究の現狀について、精確な、左もなくとも新しい消息を余に期待して居られる事と思ふから、此の二點について、自分に及ぶだけの事を努めはするが、其の爲に餘